



古閑 修一議員

どうなる 小中学校統廃合

問 小中学校統廃合推進委員会の具申を受け、今後の方針と建設に向けての進捗状況について伺う。

答 (町長) 10月1日に推進委員会より具申を受け、議会全員協議会に於て菊水地区、三加和地区、各々の統合建設の場所等について理解を求め、その後区長会に於ても理解を求めた。(菊水地区)では11月27日関係住民(前原、藤田、久米野地区)説明会、翌28日(立石、大江田、浦谷、米渡尾地区)の住民説明会を行い理解を求めると共に意見要望等を聞いた。12月2日、意見、要望等について協議を行い、現在町の方針について調整を計っている。(三加和地区)については、11月18日学校統廃合問題検討委員会

の皆様、これまでの経緯を説明し、意見、要望等を聞いた。その後、地権者、関係者との意見交換をして、住民説明会等の日程調整をしているところである。

問 学校の配置図についてはどうか、又、学校跡地についての協議はどうするのか。

答 (学校教育課長) 関係地区の説明会では、大まかな平面的な寸法を示して、このような配置も考えられるという事で説明した。現在、詳細測量を発注している。今後、学校開校準備委員会を設け、跡地利用についても検討していく。

問 小中一貫教育を進める上で、教育現場における対応についての考えを伺う。

答 (教育長) これまでも折にふれ、小中一貫教育の必要性を述べ、種々の実践発表会も実施している。今後の取り組みとして、各小中学校に担当の先生方を一人づつ置き、小中連携の窓口となつて、小中交流授業や先生の乗り入れ授業や交

替授業、交換授業など、実践研究を深めるようお願いをしている。

問 一貫教育を進める上で、開校27年に向け、先生方の確保が重要になってくると考えるが、今から県に対して先生方の異動も含めてお願いをしていく必要があると思うがどうか。

答 (教育長) 和水町の教育の方向性について一貫教育も含め資料を作成している。それをもとに、教育事務所を通じて県教育委員会に対して、人的な面の整備も含めて、教育体制の整備を図っていく。

産業廃棄物 公共関与型最終処分場 建設絶対反対

問 先日行われた県の説明会に於いて、住民の方々の絶対反対の声を受け、改めて町長として今後どのような対応をしていくのか。

答 (町長) 昨年末から環境アセスメントの方法、諸段階による現地調査が1年かけて実施されており、近く地元住

民に対し、中間報告がなされると思う。説明会には、約200名の参加があったが、施設構図への不安、選定地の経緯、アクセス道路の交通事故の心配など、たくさんの方々の意見が出されまだまだ不安は払拭されておらず、今後も、県環境整備事業団に不安を払拭するための丁寧な、かつ分かりやすい説明を求めていく。

問 今回、県知事自ら出席しての、クローズド無放流型の説明があり、このままだと建設中止を断念するしかない心配するがどうか。

答 (町長) 公共関与という、やはり熊本県の市町村が何らかの形で関わる、何らかの対応をしなければならぬ、その事は地域の方々も理解している。自分としては、地域の方々が安心して頂くよう県の対応を見守っていく。

大丈夫なのか 町の指定管理施設

問 菊水口マン館及び、肥後元気村について、現在の会社の状況についての見解と、今

後の施設運営についての考えについて伺う。

答 (町長) 地域の雇用の場として、又、農家の所得向上、住民の健康増進に関して貢献していると考え、建物の老朽化により年々その修繕管理費が膨らむ方向である。元気村については今回、約300万円の補正をお願いをして、経営分析を行い、その結果をもつて方針を示していく。方向性を決める時は、その地域の方々、近くの住民の方々のご理解が必要だと思っている。



指定管理施設『肥後元気村』